

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.32</b>		-		<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15		-		<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>2.2</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能		5階事務所4:Dr予測値=40		<b>1.0</b>	0.60		-		
2 界壁遮音性能				<b>4.0</b>	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35		-		<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38		-		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.7</b>	0.25		-		<b>2.7</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30		-		
1 昼光率				<b>1.0</b>	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00		-		
3.3 照度		5階事務所4 : 703Lx		<b>4.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	0.25		-		<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に使用		<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>2.3</b>	0.30		-		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33		-		
2 自然換気性能				<b>1.0</b>	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙を確認しており、外部に喫煙コーナーを設けていない		<b>5.0</b>	1.00		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40		-		<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.6</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペース9㎡/床以上		<b>4.0</b>	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				<b>1.0</b>	0.33		-		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室天井高2.7m以上		<b>4.0</b>	0.33		-		
2 リフレッシュスペース				<b>2.0</b>	0.33		-		
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30		-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.8</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁:ガルバリウム鋼板30年以上		<b>5.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:水道用硬質塩ビライン管・水道用ポリエチレン管(B)、汚水:塩ビ管(B)、排水:塩ビ管VP(B)、Eは不使用		<b>5.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>2.4</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				<b>1.0</b>	0.20		-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.1以上0.3未満	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		積載荷重:作業室4500N/㎡以上、事務室2900N/㎡以上	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		ケーブルラック、PF管・電線管を使用	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		ケーブルラック、空配管を使用	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.38</b>	-	-	<b>2.2</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>1.5</b>	0.30	-	-	<b>1.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.1</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.82	<b>4.8</b>	0.20	-	-	<b>4.8</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.58	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
1 水資源保護			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		PS・EPSIにより設備との錯綜を回避	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=72%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器は不使用	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		JIS照度基準等を参考に目的にあった照度を設定、広告物照明は不使用	4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	